

住し、羽黒成實・伊藤由貞に學んで詩文を能くし、耕築集・君山詩草等の遺稿がある。印牧氏由緒帳によれば、君山は多賀信濃の家人印牧甚兵衛の男で、若年から信濃に仕へ、苗字を大澤と改め、家祿七十石を受けて家老役を勤めてゐたが、元文四年致仕の後君山といひ、寛保二年九月七十餘歳で歿した。君山には男子がなかつたから、浪人中西佐左衛門の子を贅養子にして家を譲つた。それが印牧與三左衛門であり、その子仲左衛門はまた多賀氏に仕へて、家祿八十石を受けたとある。

**オホサハノナイキ** 大澤の内記 鳳至郡大澤の十村役。簡井氏。天正の頃その組織形は畠山氏に屬して越後の役入軍に抗し、前田利家の入國後亦之に馳走して、同十年十月大澤の内五俵の地を扶持せられた。慶長九年初めて十村役となり、十八年十二月歿。子孫相繼ぎ、二代内記正時は慶安三年九月歿、三代内記時永は寛文二年十月歿、四代内記時種は延寶三年十一月歿、五代權兵衛時房は享保七年四月歿、六代内記時方は安永二年四月歿、七代内記清富は天明七年三月歿、八代内記重雅は享和三年十一月歿、九代直作時椿は文化五年七月歿、十代内記成功は天保十年十月歿、十一代次郎八成則は明治十六年三月に歿した。

**オホジヌシジンシャ** 大地主神社 ↓フチユウサンノウジンジャ 府中山王神社。  
**オホシバタウゲ** 大柴峠 ↓シバタウゲ 柴峠。

**オホシホデンザエモン** 大塩傳左衛門 ↓コバヤシシヨウベエ 小林庄兵衛。  
**オホシマ** 大島 能美郡板津郷に屬する部

# オホ

落。  
**オホシマ** 大島 羽咋郡堀松庄に屬する部落。能登名跡志に、「此村に境兵衛として百姓あり。利家公名護屋御陣中御用に立ちしものにて、御帷子・御墨付など持傳へり。」とある。  
**オホシマ** 大島 鹿島郡能登島の北方海上にある島嶼。

**オホシマ** 大島 鳳至郡の海上にある七つ島の一つ。享保の書上に、「大島高さ四十間程、長さ二百間程、幅百九十間程。此島の内に之の木一本、椿三本日廻五六寸より一尺斗長さ三四尺許有之。五月より六月迄之内海士共蛇・さゞえ取に參申節は、岩の間に竹を渡し苦を張一夜居申。尤家小屋等は曾て無之。」とある。一名を小屋島といふは、海士が七つ島の中でこのみに小屋を建てたからである。

**オホシマコレナホ** 大島維直 字は無害、通稱忠藏、費川と號し、所居を三古堂といふた。越中魚津の人。その叔父の金澤に在るものに養はれた。維直年二十三で昌平彗に遊び、寛政四年召されて明倫堂助教となり、文政十二年途に進んで都講となり、班大小將組に列した。是に於いて益感奮し、將に大に學制を振興せんと欲して、積弊を改め缺漏を補ふの議を上つた。維直又經を藩侯に説くや、善を闡き邪を閉ぢ、毎に規諷の意を寓した。天保五年七月老に因つて致仕し、九年閏四月廿九日歿、享年七十七。

**オホシマシヤ** 大島社 羽咋郡大島に鎮座する。貞享の書上に、康永元年建立の棟札があるが、その下の文字は消えて見えぬとある。當社は今意富志麻神社と稱する。

**オホシマゼン** 大島書 字は伯濶、通稱を善之介と稱し、後善太郎と改めた。號は栢軒。七原又は稜亭。桃年の子で、嘉永六年家を襲ぎ、明倫堂助教となり、前田齊泰及び世子慶寧の侍讀となり、次いで慶寧の統を襲ぐに及び、假教授に進んだ。文久以還國家多難、藩侯父子西朝東觀して、概ね虚歳なかつたが、善常に隨從して、陰に獻替する所があつた。既にして王制革新し、文學教師に任せられ、慶寧の藩知事となるや、之に近侍して家記編輯の事を總管し、後金澤中學・啓明兩校の教師に歴任し、九年職を辭して東上するに及び、再び前田氏の侍讀となり、兼ねて家記を續修したが、いまだ業を終るにいたらずして歿した。時に明治十三年二月八日、享年五十四。

**オホシマトウネン** 大島桃年 維直の子、通稱清太、字は景實、初め藍渾と號し、後に柴垣と改めた。催詩樓はその讀書推敲の處である。桃年の昌平彗に學ぶや、大規模深と最も親善であつた。文政五年郷に歸り、明倫堂助教となり、前田齊泰の四書匯參・欽定四經等を校刻せしめた時、桃年亦興りて功があつた。その歿後に成れる史記考異十四冊は、諸儒と共に齊泰の命を受け、幕府・列侯の藏するもの二十餘種に就きて異同を校勘したものである。嘉永六年八月十六日歿、年六十。柴垣文章の遺稿がある。

**オホシマノリタカ** 大島矩隆 通稱門十郎。明和二年養父彦太夫の遺知四百石を繼ぎ、大小將に班し、安永九年正月十四日藩侯如來寺參詣御供の途中石引町で即死した。享年三十三。

**オホシマハマ** 大島濱 能美郡大島の内の小字。  
**オホスガナミ** 大菅波 江沼郡那谷に屬する部落。笈恩紀聞に、往古は山麓にあつたが、山口立審の時今の所に移された。この頃その地に管池があつたから村名が起つたとある。しかし古への管浪郷と關係ある地名だから、前説は附會である。

**オホスギ** 大杉 能美郡粟津郷に屬する部落。郷村名義抄に、昔年大杉の樹があつたから邑名を得たとある。  
**オホスギガハ** 大杉川 ↓アタカガハ 安宅川。  
**オホスギザキ** 大杉崎 鹿島郡津向の北方にあつて海中に突出し、七尾港西面の風波を遮る。

**オホスギタウゲ** 大杉峠 能美郡大杉から江沼郡今立に通ずる峠。高さ四七三米。  
**オホスギダニ** 大杉谷 能美郡白山驛廻岳の西北なる溪谷で、その水牛首川に注ぐ。  
**オホスキノイテフ** 大杉の公孫樹 能美郡大杉の大杉神社境内に在る。この部落に大杉の名があるのも、神社の西方隣接地に老杉があつたからだといはれるから、他にもまだ多くの古木が在つたものゝやうである。此の公孫樹の根部は社殿改築の際約一米を地中に埋めたのだが、その以前は地上で周囲一〇米を測つた。乳柱の多いことは加賀國內第一である。

**オホスゴ** 大畠子 羽咋郡飯室の内の小字。  
**オホセナホハル** 大瀬直温 通稱を友作といひ、鈴嶺と號した。その學業は、主として之を藩校明倫堂に得た所である。直温明治三